借金苦からの救助
目覚しい生対委の活躍

（ひのき）

緑ガ丘檜町に生対委が誕生して三カ月になる。三カ月の短い期間だが、しかし分会内で借金という泥沼から抜け出そうにも抜け出せなかった人がつぎつぎと希望をとりもどして家庭建設へいそしんでいるのだ。生対委ができて以来、分会の躍進ぶりは目覚ましく、生対委諸氏の献身的な努力にくわえて被害者のたゆまざる協力が大きな効果を挙げている。檜町から借金に苦しむ人たちが皆無となる日もそう遠いことではなさそうだ。以下三カ月の成果をのぞいてみよう。

借金に退職金も

檜町にはいま百数十戸があり、しかし必ずしも全家庭が余裕のある家ばかりとはいえない。そのうち何割かの人たちは明日の生活に困つてあえいでいる現状なのだ。この人たちへ一日も早く暖い手をさしのべてやらねば……と生対委が誕生したのだった。生対委が発足するやいなや、早速各戸の実態調査を検討しその対策にとりかかつた。

某さんのごときは借金を苦に退職金でその精算を企てようとしていた。ところが皮肉にも退職金でその借金返済の足りないことを知つたという笑えない事実すらあつた。これを知つた生対委では早速本人を呼び、その打開策を練り、金融会社や関係方面に奔走してその実態を打ち明け話したところ、或る商店のごときは二万数千円の金を利子はおろか元金までもとらずに協力したという奇特な人さえいた。或るときはまた、十数万の借金を八万円でキレイさつぱり精算できた例もある。

誓約書を取交す

或る人が十万円を金融から借りたとする。その利子は驚くなかれ月に一万円、一年後には元利で二十数万円の大金になる。こういう金額を返済する力はわれわれ労働者には毛頭なかろう。そこで問題になるのがこの利子なのだ。

組合から事情を訴え二万円を借つたとしても残り八万円は親戚その他に交渉する外はない。そこで生対委では本人同伴で久留米、羽犬塚、柳川と会社帰りに金策交渉に数回となく行つている。こうして無利子の金ができるが、しかし親戚からの金も返さねばならない。現在まで月に一万もの金を利子として出していたとすると、十カ月後には十万の金が手許に残る、一年後には金融には勿論、親戚関係も見事返済するという仕組みになつている。

生対委ではその間、被害者の夫婦と誓約書を取交し、この人たちの生活管理に当つている。ちなみに誓約書の内容をみると。

一、一カ月何方以上
一、酒一カ月に何升
一、煙草一カ月何を何個
一、生活費月に何千何百円

など十数項目からなつている。こういう方法でいままで十名近くが借金の泥沼から足を洗うことができたのだ。その陰には本人の努力はいわずもがな親戚その他の協力は忘れることはできないだろう。この成果があがるにつれ、他分会の分会員の中には自分の問題もぜひ解決して貰いたいという希望も出ているほどで、檜の生対委では他分会もこういう会を発足強化させることを望んでいる。

職場に暗い空気が
勤務評定を実施されて
愛媛の先生は訴える

全国の先生たちはいま勤務評定の実施に反対して闘つているが、愛媛県ではすでに今春から評定が強行され、差別昇給が実施された。それ以後愛媛の職場はどう変つただろうか。現地の声を伝えてみる。

【八幡浜一組合員】二、三日前職員室で昇給の話が出たとたんに不気味な空気が全体に流れた。同僚の一人A先生の昇給がのばされているのだ。私は採点をしながらこの空気の重々しさにたえられなかつた。もちろん顔などあげる勇気はない。やたらと答案にペンを走らせた。

おかげで丸やペケがまちがつていると子供たちから苦情が出た。早く全面昇給を実施してこのやりきれぬ気持をふつとばしたい。

【宇和島一組合員】評定が実施されすでにさまざまな好ましくないものが芽生えている。

まず校長の発言が強硬になつた。昇給もれの人たちは非常な不満と不当な劣等意識に日夜苦しみ、結局、じようずに世渡りをする者がとくをするという考え方に傾きつつある。人並みに昇給した人たちは、初めは憤慨し、もれたものを慰めようともしたが、それもしだいに忘れられている。

【八幡浜一女教師】私は昇給したしかし同じ職場で女の先生がもれていた。その先生は大変熱心で学級経営もじようずである。私など足もとへもよれない立派な先生なのに、どんな原因で不利になつたのか理解に苦しむ。

これでは昇給の喜びよりも不安が先にわく。きくところによれば評定のしわよせは女教師にきているという。昔ながらの男尊女卑の考え方で女をみるからであろう。まことに遺憾なことである。

【宇和島のある職場で】四十代の男の先生「表面的にはどうこう変つた面はないようだが、組合運動に対するあきらめの気持が強くなつたようだ。自己のカラにとじこもりいわゆる昔の先生にあともどりしていくようだ」

四十代の女の先生「評定実施後組合意識がますます低調になつているようです。いまこそ組合の内部崩壊の危機ではないか」

四十代の男の先生「給料が上らぬので仕事に精を出すのがいやになつた。消極的になりどうしてもせねばならぬ仕事以外にするのがいやになつてしまつた」。

【八幡浜一組合員】七割組だの三割組だのといつていた頃よりも三割組の一員とわかつた今の方が割合にゆつたりした気持でいられるから不思議なものだ。

しかしみんなが心配してくれているほど弱りこんでいない。お互いに元気でやろう。

終掘に反対斗争
炭労調査団も派遣

なまず田労組はいま「ある炭は全部掘るまで闘い抜く」と悲壮な決意で企業反対闘争に立上つている。なまず田六坑の終掘問題がこれで会社は六坑の稼行条件の悪化（断層）と山丈、岩丈が低くなつたうえにハサミが増大したため来年三月で終掘し、現在準備中の佐与坑に配転するというものである。

組合は売山、閉山、租鉱権など一切の権限は炭労にあることを通告するとともに、山を潰すという切実なことがたんに代替職場があるからという安易に考えるということは大きな間違いであることを会社に反省を促すとともに、闘争日程などを決定した。

三月に終掘

会社は閉山の理由として

(1) 払が前進するにつれ断層線があらわれ採掘は困難
(2) 縮細炭量の採炭量が実績よりみて半分であり、それ以上掘ると重圧がかかり器材の撤収が不可
(3) 山丈、岩丈が低くハサミがふくれ条件が悪く鉱害が大きい

以上を理由としているが、組合ではこれに対し、

(1) 断層による炭層不安定を理由にしているが、廿四年に左記を採炭している。
(2) 採算が合わぬといつているが過去六坑では、この層の採炭だけで操業していたではないか。
(3) 三二年上期の経協では鉱命を来年九月までといつていたが、三月とする理由を具体的に説明せよ。

この決定に基いて、二十一日団交を開き、組合は長計協定に「閉山する場合は炭量がない場合」と規定しているのに、炭量があるのにかゝわらず終掘するのかと鋭く追求して、理由資料を提出させることにした。

デタラメな資料

翌二十二日団交を再開したが、会社資料はあられもない数字でつくられたものとしか判断できなかつた。

組合はこのため、会社から具体的な資料が提出されないため本格的な交渉進展は望めない、よつて内部で打合せたうえ文書で資料提示を再度求める。なおこれからの交渉は山元で行うか小委員会方式でやるか追つて通告するとして交渉を打ちきつた。

なお、炭労調査団も十二月十一日に来坑、十三日から調査を行うことになつている。

討論集会開く
四、五日に大牟田で

中央総評主催の最低賃金制討論集会がいま行われているが、大牟田地区オルグ講習会来る四、五日の両日労働会館で行われることになつている。

とくにオルグとして高知から来牟する「稲生右灰」のオルグは実地に最賃制を獲得する指導の体験者で、ここでは実際に現在最低賃金制を闘いとつており、この経験から、理論よりも実務についての指導が行われるものと期待されている。

なお今回は熊本、佐賀、長崎、福岡から指導者の出席が決定しているが、熊本、佐賀、長崎から各五名、福岡から十名が参加する。

当日四日は午後一時から、五日は午前九時から開始されることになつている。

新年文藝締切を延長
十二月十日正午必着に

◈**創作**　四百字詰十枚以内、選者＝野間宏、賞金入選一席千五百円、二席千円、三席五百円

◈**詩**　一人一篇、選者＝野間宏、賞金入選一席七百円、二席五百円、三席三百円

◈**短歌**（題＝音、草）一人各二首、選者＝岩本宗二郎、賞金天五百円、地三百円、人二百円

◈**俳句**（題＝初鶏）一人二句、選者＝吉岡禪寺洞、賞金右同

◈**川柳**（題＝初夢、犬）一人二句、選者＝速水晋二郎、賞金右同

◈**児童つづり方**（題＝時計）編集部選、四百字詰二枚以内、賞品進呈

◈**感想文**（題＝岸内閣に物申す、自由題）編集部選、四百字詰四枚、賞金一位五百円、二位三百円、三位二百円。主婦は「姿見」四百字詰一枚

◈**写真**（題＝冬、犬）大きさキャビネ、一位五百円、二位四百円、三位三百円、その他各種佳作懸賞進呈

◈**新人賞**　本年から新人賞を次の通り設けたので奮つて応募下さい。

【創作】新人杯及賞金千円＝一名
【詩】新人杯及賞金五百円＝一名
【規定】昭和二十八年新年号より三十二年の夏季号まで入選（佳作は含まず）していない人で優秀作を発表した人。
【写真】新人杯及び賞金五百円
規定は他と同様

※締切十二月十日正午必着
※ペンネーム及本名、所属支部職名明記せぬときは入選を取消す場合があります。

【註】短歌は「音」「草」とも題とします。

組織力講座（1）
ストライキの成果

九大助教授　奥田八二

もう二年も前だつたか、同じ題で私は本紙の読者にストとその成果についての考え方を訴えた。先日緑ガ丘の三川支部のある分会での討論会でも、この問題が論議の焦点になつたので改めて書こう。

議論の起りは、杵島で九七日もストをやつたのに、妥結の結果は四三五万もの賃金引下げに終つたが、それをどう評価するか、ということだつたと思う。三鉱労組の昨年の到達闘争のあとでは、この種の論議で、組合は負けた、いや勝つた、というわけで組合内部も大変なことだつたらしい。

勝つたとか少くとも負けたのではないとする側は、闘争により組合の組織が守られ固められたという点を強調し、そのことが社会主義への段階を一歩進めたということをもつけ加える。

負けたという側は、ストによる喪失賃金が獲得できた賃上げを上まわる点を強調する。そして組合運動の基本は、組織とか社会主義とかの抽象的な高遠な論議の前に組合員の日常の経済上の利益を守ることにあると主張する。

一大ざつぱにみた右の二つの意見は、かんたんにいえば、どちらも誤りではない。そしてどちらも組合を思うまじめな意見である。それがどこで交差し論敵になるのであろうか。もしこれが調整されなければ、悪くすると事態は例えば二七年秋の電産と炭労の大争議のあとのように、総評批判、分裂、全労結成という悲劇にまで発展しようということなのではない。歯車の回転を一寸かえるだけでよい。

組合の任務が組合員の経済上の利益を守ることであるのはいうまでもない。ストによる賃上げよりも喪失賃金の方が多ければ、組合が負けたといつてもよい。勝つたと強弁することはできない。しかしそこだけを差引勘定するなら問題は残る。第一、局部戦で負けても大局的に勝つてはそれで勝になることは誓の常識通りである。敵に先手をとられ大勢をリードされるならば負は必定。第二、計算上の損得はむしろ一般経済情勢に左右されての結果である。闘いなしに賃上げも賃下げも起りうる。闘うことによつて10の賃下げを5にくいとめる、これはさきの計算では得た賃金などありはしない。第三賃金のほかに、首切、不当解雇、弾圧立法、最低賃金法のような計算上ビタ一文にもならぬストもありうる。同情ストもだ。近視眼的右派組合がこんなのをきらうのはそのためだ。右派組合が賃上げのほかはほとんど何もしないのはそのためだ。

といつても計算を無視して初志貫徹と称してトコトンまでストを指導し、それで組織を守つた、意気を高めたなどというのは愚かである。こんな場合ストのあとにくる疲労が組織や意識に各ぼす影響一般には第二組合をうみ、両者の歩みはますます開いて「ハネ上り」と「日和見」となり、互に罵倒しあうに至る。

まじめな意見なら、論議をつくしさえすれば一致するはず。それも歩み寄るとか両者の中間をとる運動の基本は、組織とか社会主義への段階を一歩進めたということをもつけ加える。

負けたという側は、ストによる喪失賃金が獲得できた賃上げを上まわる点を強調する。そして組合

一、大ざつぱにみた右の二つの意見は、かんたんにいえば、どちらも誤りではない。そしてどちらも組合を思うまじめな意見である。それがどこで交差し論敵になるのであろうか。もしこれが調整されなければ、悪くすると事態は例えば二七年秋の電産と炭労の大争議のあとのように、総評批判、分裂、全労結成という悲劇にまで発展しようということなのではない。歯車の回転を一寸かえるだけでよい。

組合の任務が組合員の経済上の利益を守ることであるのはいうまでもない。ストによる賃上げよりも喪失賃金の方が多ければ、組合が負けたといつてもよい。勝つたと強弁することはできない。しかしそこだけを差引勘定するなら問題は残る。第一、局部戦で負けても大局的に勝つてはそれで勝になることは誓の常識通りである。敵に先手をとられ大勢をリードされるならば負は必定。第二、計算上の損得はむしろ一般経済情勢に左右されての結果である。闘いなしに賃上げも賃下げも起りうる。闘うことによつて10の賃下げを5にくいとめる、これはさきの計算では得た賃金などありはしない。第三賃金のほかに、首切、不当解雇、弾圧立法、最低賃金法のような計算上ビタ一文にもならぬストもありうる。同情ストもだ。近視眼的右派組合がこんなのをきらうのはそのためだ。右派組合が賃上げのほかはほとんど何もしないのはそのためだ。

といつても計算を無視して初志貫徹と称してトコトンまでストを指導し、それで組織を守つた、意気を高めたなどというのは愚かである。こんな場合ストのあとにくる疲労が組織や意識に各ぼす影響職制の魔手ののびてくることを考慮されなければならない。それに勝てる成算があるかないかが問題である。

そういう意味での、それを含めての計算は抜きにすることはできない。組織なしの利益防衛はありえないからである。組合員の意識いかんでは、獲得の目前の計算を抜きにしたストも考えてよいであろう。

もつと重要なことは、真のストの成果はスト妥結直後にわかるものではないということだ。ストの疲労に対する闘い、動揺建て直し組織の点検、自己批判の方向、次の闘いへの備え、このような内部闘争が続いているということ、これにも勝たなくてはスト戦果の収穫はないということだ。

愈々中盤戦へ
リコール署名四万に

リコール運動もいよいよ中盤戦へ突入した。大牟田地区の知事リコール署名運動は、各校区ごとの協議会を単位に活動しているが、二十四日三鉱労組会議室で行われた校区代表者会議で確認された署名集計は、約四万票である。

目標は市内有権者十万六千名中七万五千名であり、これで約半数が集められた結果となつた。

集団社宅街は出足も早く署名も快調で、すでに事実上完了したような状態であり、こんどは市中心部の集りの悪いところや、三池、山門郡など市外、農村地帯に重点がおかれている。

とくに天道、三里校区は署名が一番すすんでおり、三里校区社宅外の一収集人は

私のところでは一収集人で選挙人名簿を三枚から四枚を受け持つています。署名の中で活動する人をみつけ、収集人をふやすように心がけています。

と語つていた。

大合唱の〝砂川〟
不当処分反対の歌も

ことしの「日本のうたごえ祭典」はいよいよ十二月十四日、十五日の両日、東京都体育館でひらかれる。どこの職場でもコーラスの練習に余念がないが、さてことしの話題をひろつてみると。

◈…〝うたごえは平和の力〟は去年までの中心スローガンだつたがことしは八月に東京でひらかれた第三回原水爆禁止世界大会の決議〝原子戦争準備反対〟を中心においている。このため全国合唱団会議の大合唱〝砂川〟のうたが最大の呼びものになつている。

◈…参加人員もグンとふえて延予定人員は四万人。毎年、会場に入りきれない人が出てテンヤワンヤしているだけに、定員一万二千名の東京体育館でこれをどうしてさばくか、実行委員会ではいまから頭をなやましている。

◈…産業別うたごえでは私鉄、電機、化学などが新しく組織参加するが、関連産業が統一して一つの歌をうたうのも特徴の一つ。造船・鉄鋼・炭労・全鉱などが仲よく出席する。またうたごえの国際交流も盛んで、全電通は中国郵電工会から送つてきた歌をほん訳してうたう。今年の七月モスクワの世界青年平和友好祭で入賞した日本代表の「邦楽アンサンブル」もききものだろう。

◈…しかしなんといつてもことし最大の特徴は、参加者がそれぞれ創作ものをもちこんでいることだ国鉄は闘争中に全国からつのつた〝不当処分反対のうた〟を発表するし、十四日には「歌曲と合唱の創作発表会」（正午から杉並公会堂）が組まれている。

◈…そのほか十三日には「農村のうたごえ」十五日には「合唱コンクール」（いずれも杉並公会堂）がひらかれる。

この合唱コンクールは朝日新聞社がやつているように、技術だけをみるというのでなく、内容、態度組織まで評価するというので、職場コーラスにとつては、この賞をとれば最高の栄誉に輝くわけだ。